

2027 年度 大阪大学皮膚科

A. 専門医研修の教育ポリシー：

研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える。

B. プログラムの概要：

本プログラムは、大阪大学医学部附属病院を研修基幹施設として、市立吹田市民病院、大阪けいさつ病院、公益財団法人日本生命済生会日本生命病院、地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪急性期・総合医療センター、地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪はびきの医療センター、一般財団法人住友病院、地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪国際がんセンター、独立行政法人地域医療機能推進機構大阪みなと中央病院、独立行政法人地域医療機能推進機構大阪病院、箕面市立病院、市立池田病院、市立豊中病院、独立行政法人国立病院機構大阪医療センター、独立行政法人労働者健康安全機構関西労災病院、独立行政法人国立病院機構南和歌山医療センター、医療法人医誠会医誠会国際総合病院を研修連携施設として、独立行政法人労働者健康安全機構大阪労災病院 皮膚科、医療法人徳洲会岸和田徳洲会病院 皮膚科、国家公務員共済組合連合会大手前病院 皮膚科を準連携施設として加えた研修施設群を統括する研修プログラムである。

なお、本プログラムは各研修施設の特徴を生かした複数の研修コースを設定している。
(項目 J を参照のこと)

C. 研修体制

研修基幹施設：大阪大学医学部附属病院皮膚科

研修プログラム統括責任者（指導医）：藤本 学 専門領域：膠原病、自己免疫疾患

指導医：金田 眞理 専門領域：遺伝性皮膚疾患

指導医：玉井 克人 専門領域：表皮水疱症

指導医：坂井 浩志 専門領域：ダーモスコピー、下肢静脈瘤

指導医：清原 英司 専門領域：皮膚悪性腫瘍（リンパ腫）

指導医：中川 幸延 専門領域：アレルギー、薬疹

指導医：荒瀬 規子 専門領域：自己免疫疾患

指導医：植田 郁子 専門領域：膠原病、肉芽腫

指導医：松村 裕 専門領域：アトピー性皮膚炎、膠原病

指導医：吉岡 華子 専門領域：遺伝性皮膚疾患

指導医：松岡 悠美 専門領域：アトピー性皮膚炎、円形脱毛症

指導医：石塚 洋典 専門領域：皮膚腫瘍、表皮細胞生物学

指導医：外村 香子 専門領域：アトピー性皮膚炎、膠原病

指導医：森坂 広行 専門領域：表皮水疱症

指導医：横井 一範 専門領域：白斑

指導医：中川 誠太郎 専門領域：円形脱毛症、アトピー性皮膚炎

施設特徴：

専門外来として、アトピー外来、アレルギー外来、膠原病外来、腫瘍外来、白斑外来、遺伝病外来、脱毛症外来、ダーモスコピー外来を設けており、外来患者数は1日平均100名にのぼり、豊富な経験を積むことが可能。また、年間手術件数は250名を超える。研究の面では、いくつかのグループを作り、指導医との連携を強め、多様な研究結果を創出している。

研修連携施設：市立吹田市民病院

所在地：吹田市岸部新町5-7

プログラム連携施設担当者（指導医）：越智 沙織

特徴：当病院は皮膚科常勤医が診療を行う地域の中核病院です。当院皮膚科では小児から高齢者まで、地域のクリニックや他科からの紹介患者を中心に診療しています。外来診療では治療困難な患者、もしくは精査が必要な患者に関しては入院管理にて対応いたします。難治例や高度な検査が必要な患者に関しては、大学病院と連携して紹介もこなっています。

研修連携施設：大阪けいさつ病院

所在地：大阪府大阪市天王寺区烏ヶ辻2-6-40

プログラム連携施設担当者（指導医）：坂井 浩志

特徴：当病院は皮膚科常勤医が診療を行う地域の中核病院です。当院皮膚科では小児から高齢者まで、地域のクリニックや他科からの紹介患者を中心に診療しています。外来診療では治療困難な患者、もしくは精査が必要な患者に関しては入院管理にて対応いたします。難治例や高度な検査が必要な患者に関しては、大学病院と連携して紹介もおこなっています。

研修連携施設：公益財団法人日本生命済生会 日本生命病院

所在地：大阪府大阪市西区立売堀6-3-8

プログラム連携施設担当者（指導医）：林 美沙

特徴：当病院は皮膚科常勤医が診療を行う地域の中核病院です。当院皮膚科では小児から高齢者まで、地域のクリニックや他科からの紹介患者を中心に診療しています。外来診療では治療困難な患者、もしくは精査が必要な患者に関しては入院管理にて対応いたします。難治例や高度な検査が必要な患者に関しては、大学病院と連携して紹介もおこなっています。

研修連携施設：地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センター

所在地：大阪府住吉区万代東3-1-56

プログラム連携施設担当者（指導医）：大畑 千佳

特徴：当病院は皮膚科常勤医が診療を行う地域の中核病院です。当院皮膚科では小児から高齢者まで、地域のクリニックや他科からの紹介患者を中心に診療しています。外来診療では治療困難な患者、もしくは精査が必要な患者に関しては入院管理にて対応いたします。難治例や高度な検査が必要な患者に関しては、大学病院と連携して紹介もおこなっています。

研修連携施設：地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪はびきの医療センター

所在地：大阪府羽曳野市はびきの3-7-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：片岡 葉子

特徴：当病院は皮膚科常勤医が診療を行う地域の中核病院です。当院皮膚科では小児から高齢者まで、地域のクリニックや他科からの紹介患者を中心に診療しています。外来診療では治療困難な患者、もしくは精査が必要な患者に関しては入院管理にて対応いたします。難治例や高度な検査が必要な患者に関しては、大学病院と連携して紹介もおこなっています。

研修連携施設：一般財団法人 住友病院

所在地：大阪府大阪市北区中之島5-3-20

プログラム連携施設担当者（指導医）：庄田 裕紀子

特徴：当病院は皮膚科常勤医が診療を行う地域の中核病院です。当院皮膚科では小児から高齢者まで、地域のクリニックや他科からの紹介患者を中心に診療しています。外来診療では治療困難な患者、もしくは精査が必要な患者に関しては入院管理にて対応いたします。難治例や高度な検査が必要な患者に関しては、大学病院と連携して紹介もおこなっています。

研修連携施設：地方独立行政法人 市立東大阪医療センター

所在地：大阪府東大阪市西岩田3-4-5

プログラム連携施設担当者（指導医）：猿喰 浩子

特徴：当病院は皮膚科常勤医が診療を行う地域の中核病院です。当院皮膚科では小児から高齢者まで、地域のクリニックや他科からの紹介患者を中心に診療しています。外来診療では治療困難な患者、もしくは精査が必要な患者に関しては入院管理にて対応いたします。難治例や高度な検査が必要な患者に関しては、大学病院と連携して紹介もおこなっています。

研修連携施設：堺市立総合医療センター

所在地：大阪府堺市西区家原寺町1-1-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：田中 文

特徴：当病院は皮膚科常勤医が診療を行う地域の中核病院です。当院皮膚科では小児から高齢者まで、地域のクリニックや他科からの紹介患者を中心に診療しています。外来診療では治療困難な患者、もしくは精査が必要な患者に関しては入院管理にて対応いたします。難治例や高度な検査が必要な患者に関しては、大学病院と連携して紹介もおこなっています。

研修連携施設：地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター

所在地：大阪市中央区大手前3-1-69

プログラム連携施設担当者（指導医）：大江 秀一

特徴：当病院は皮膚科常勤医が診療を行う地域の中核病院です。当院皮膚科では小児から高齢者まで、地域のクリニックや他科からの紹介患者を中心に診療しています。外来診療では治療困難な患者、もしくは精査が必要な患者に関しては入院管理にて対応いたします。難治例や高度な検査が必要な患者に関しては、大学病院と連携して紹介もおこなっています。

研修連携施設：独立行政法人 地域医療機能推進機構 大阪みなと中央病院

所在地：大阪府大阪市港区磯路1-7-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：三浦 宏之

特徴：当病院は皮膚科常勤医が診療を行う地域の中核病院です。当院皮膚科では小児から高齢者まで、地域のクリニックや他科からの紹介患者を中心に診療しています。外来診療では治療困難な患者、もしくは精査が必要な患者に関しては入院管理にて対応いたします。難治例や高度な検査が必要な患者に関しては、大学病院と連携して紹介もおこなっています。

研修連携施設：独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪病院

所在地：大阪市福島区福島4-2-78

プログラム連携施設担当者（指導医）：竹原 友貴

特徴：当病院は皮膚科常勤医が診療を行う地域の中核病院です。当院皮膚科では小児から高齢者まで、地域のクリニックや他科からの紹介患者を中心に診療しています。外来診療では治療困難な患者、もしくは精査が必要な患者に関しては入院管理にて対応いたします。難治例や高度な検査が必要な患者に関しては、大学病院と連携して紹介もおこなっています。

研修連携施設：箕面市立病院

所在地：大阪府箕面市萱野5-7-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：松本 千穂

特徴：当病院は皮膚科常勤医が診療を行う地域の中核病院です。当院皮膚科では小児から高齢者まで、地域のクリニックや他科からの紹介患者を中心に診療しています。外来診療では治療困難な患者、もしくは精査が必要な患者に関しては入院管理にて対応いたします。難治例や高度な検査が必要な患者に関しては、大学病院と連携して紹介もおこなっています。

研修連携施設：市立池田病院

所在地：大阪府池田市城南3-1-18

プログラム連携施設担当者（指導医）：近藤 由佳理

特徴：当病院は皮膚科常勤医が診療を行う地域の中核病院です。当院皮膚科では小児から高齢者まで、地域のクリニックや他科からの紹介患者を中心に診療しています。外来診療では治療困難な患者、もしくは精査が必要な患者に関しては入院管理にて対応いたします。難治例や高度な検査が必要な患者に関しては、大学病院と連携して紹介もおこなっています。

研修連携施設：市立豊中病院

所在地：大阪府豊中市柴原町4-14-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：横見 明典

特徴：当病院は皮膚科常勤医が診療を行う地域の中核病院です。当院皮膚科では小児から高齢者まで、地域のクリニックや他科からの紹介患者を中心に診療しています。外来診療では治療困難な患者、もしくは精査が必要な患者に関しては入院管理にて対応いたします。難治例や高度な検査が必要な患者に関しては、大学病院と連携して紹介もおこなっています。

研修連携施設：独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター

所在地：大阪市中央区法円坂2-1-14

プログラム連携施設担当者（指導医）：小澤 健太郎

特徴：当病院は皮膚科常勤医が診療を行う地域の中核病院です。当院皮膚科では小児から高齢者まで、地域のクリニックや他科からの紹介患者を中心に診療しています。外来診療では治療困難な患者、もしくは精査が必要な患者に関しては入院管理にて対応いたします。難治例や高度な検査が必要な患者に関しては、大学病院と連携して紹介もおこなっています。

研修連携施設：独立行政法人労働者健康安全機構関西労災病院

所在地：兵庫県尼崎市稲葉荘3-1-69

プログラム連携施設担当者（指導医）：福山 國太郎

特徴：当病院は皮膚科常勤医が診療を行う地域の中核病院です。当院皮膚科では小児から高齢者まで、地域のクリニックや他科からの紹介患者を中心に診療しています。外来診療では治療困難な患者、もしくは精査が必要な患者に関しては入院管理にて対応いたします。難治例や高度な検査が必要な患者に関しては、大学病院と連携して紹介もおこなっています。

研修連携施設：独立行政法人国立病院機構南和歌山医療センター

所在地：和歌山県田辺市たきない町27-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：南 宏典

特徴：当病院は皮膚科常勤医が診療を行う地域の中核病院です。当院皮膚科では小児から高齢者まで、地域のクリニックや他科からの紹介患者を中心に診療しています。外来診療では治療困難な患者、もしくは精査が必要な患者に関しては入院管理にて対応いたします。難治例や高度な検査が必要な患者に関しては、大学病院と連携して紹介もおこなっています。

研修連携施設：医療法人医誠会 医誠会国際総合病院

所在地：大阪市北区南扇町4番14号

プログラム連携施設担当者（指導医）：爲政 大幾

特徴：当病院は皮膚科常勤医が診療を行う地域の中核病院です。当院皮膚科では小児から高齢者まで、地域のクリニックや他科からの紹介患者を中心に診療しています。外来診療では治療困難な患者、もしくは精査が必要な患者に関しては入院管理にて対応いたします。難治例や高度な検査が必要な患者に関しては、大学病院と連携して紹介もおこなっています。

研修準連携施設：独立行政法人労働者健康安全機構 大阪労災病院 皮膚科

所在地：大阪府堺市北区長曾根町1179-3

研修準連携施設：医療法人徳洲会 岸和田徳洲会病院 皮膚科

所在地：大阪府岸和田市加守町4-27-1

研修準連携施設：国家公務員共済組合連合会 大手前病院 皮膚科

所在地：大阪府中央区大手前1丁目5番34号

研修管理委員会に関して

委員長を中心として年2回の研修管理委員会を開催し、研修プログラムにおける各施設の研修状況や見直しを都度検討する。

研修管理委員会委員：

委員長：藤本 学 (大阪大学医学部附属病院)
 委員：越智 沙織 (市立吹田市民病院)
 委員：坂井 浩志 (大阪けいさつ病院)
 委員：林 美沙 (公益財団法人日本生命済生会 日本生命病院)
 委員：大畑 千佳 (地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センター)
 委員：片岡 葉子 (地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪はびきの医療センター)
 委員：庄田 裕紀子 (一般財団法人 住友病院)
 委員：猿喰 浩子 (地方独立行政法人 市立東大阪医療センター)
 委員：田中 文 (堺市立総合医療センター)
 委員：大江 秀一 (地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター)
 委員：三浦 宏之 (独立行政法人 地域医療機能推進機構 大阪みなと中央病院)
 委員：竹原 友貴 (独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪病院)
 委員：松本 千穂 (箕面市立病院)
 委員：近藤 由佳理 (市立池田病院)
 委員：横見 明典 (市立豊中病院)
 委員：小澤 健太郎 (独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター)
 委員：福山 國太郎 (独立行政法人労働者健康安全機構関西労災病院)
 委員：南 宏典 (独立行政法人国立病院機構南和歌山医療センター)
 委員：爲政 大幾 (医療法人医誠会 医誠会国際総合病院)
 委員：清原 英司 (大阪大学医学部附属病院)

他科・他職種

委員：猪原美代 (大阪大学外来副看護師長)

研修資源実績（外来患者数・入院患者数・指導医数：本プログラムの按分数）

	1日平均 外来患者 数	1日平均 入院患者 数	局所麻酔年間手 術数（含生検 術）	全身麻酔 年間手術 数	指導 医数
大阪大学医学部附属病院	80	10	157	64	13
市立吹田市民病院	33.2	3	285	0	0.7
大阪けいさつ病院	40	4	412	0	0.7
公益財団法人日本生命済生会 日 本生命病院	70	6	230	0	1.4
地方独立行政法人大阪府立病院機 構 大阪急性期・総合医療セン ター	15	3	164	0	0.7
地方独立行政法人 大阪府立病院 機構 大阪はびきの医療センター	50	6	664	9	1
一般財団法人 住友病院	28	3.5	370	0	0.7
地方独立行政法人 市立東大阪医 療センター	30	4	617	0	0.7
堺市立総合医療センター	38.2	5.9	634	0	0.7
地方独立行政法人大阪府立病院機 構 大阪国際がんセンター	18	6	129	50	1
独立行政法人 地域医療機能推進 機構 大阪みなと中央病院	25	2	50	0	0.7
独立行政法人地域医療機能推進機 構 大阪病院	19.8	4.1	319	0	1.4
箕面市立病院	25	3.5	0	0	0.7
市立池田病院	20	3	438	0	1
市立豊中病院	37.38	7.91	920	54	0.7
独立行政法人国立病院機構 大阪 医療センター	10	2	322	18	0.7
独立行政法人労働者健康安全機構 関西労災病院	30	4	154	10	0.7
独立行政法人国立病院機構南和歌 山医療センター	20	0.7	12	0	0.7
医療法人医誠会 医誠会国際総合 病院	10	3	214	40	0.6
合計	599.58	81.61	6091	245	27.8

D. 募集定員：18名

- ①通常プログラム：15名
- ②連携プログラム：3名

E. 研修応募者の選考方法：

書類審査などにより決定（大阪大学医学部皮膚科のホームページ等で公表する）。また、選考結果は、本人あてに別途通知する。なお、応募申請方法は大阪大学医学部皮膚科ホームページ専攻医募集の箇所に記載されている。

F. 研修開始の届け出：

選考に合格した専攻医は、研修開始年の3月31日までにプログラム登録申請書（仮称）に必要事項を記載のうえ、プログラム統括責任者の署名捺印をもらうこと。その後、同年4月30日までに皮膚科領域専門医委員会（hifu-senmon@dermatol.or.jp）に通知すること。

G. 研修プログラム 問い合わせ先：

大阪大学医学部附属病院
清原英司

TEL：06-6879-3031

FAX：06-6879-3039

メールアドレス：ikyoku@derma.med.osaka-u.ac.jp

H. 到達研修目標：

本研修プログラムには、いくつかの項目において、到達目標が設定されている。別冊の研修カリキュラムと研修の記録を参照すること。特に研修カリキュラムのp.21～22には経験目標が掲示しているので熟読すること。

I. 研修施設群における研修分担：

それぞれの研修施設の特徴を生かした皮膚科研修を行い、研修カリキュラムに掲げられた目標に従って研修を行う。

1. 大阪大学医学部皮膚科では医学一般の基本的知識技術を習得させた後、難治性疾患、稀な疾患などより専門性の高い疾患の診断・治療の研修を行う。さらに医師としての診療能力に加え、教育・研究などの総合力を培う。また、少なくとも1年間の研修を行う。

2. 関西労災病院皮膚科、市立池田病院皮膚科、箕面市立病院皮膚科、市立豊中病院皮膚科、大阪病院皮膚科、住友病院皮膚科、大手前病院皮膚科、大阪医療センター皮膚科、日本生命病院皮膚科、第二大阪警察病院皮膚科、大阪府立急性期総合医療センター皮膚科、市立東大阪医療センター皮膚科、大阪労災病院皮膚科、大阪はびきの医療センター皮膚科、岸和田徳洲会病院皮膚科、南和歌山医療センター皮膚科、大阪国際がんセンター腫瘍皮膚科、堺市立総合医療センター皮膚科、大阪みなと中央病院皮膚科、吹田市民病院皮膚科、医誠会国際総合病院皮膚科、大手前病院では、急性期疾患、頻繁に関わる疾病に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、地域医療の実践、病診連携を習得し、大阪大学医学部皮膚科の研修を補完する。

J. 研修内容について

1. 研修コース

本研修プログラムでは、以下の研修コースをもって皮膚科専門医を育成する。ただし、研修施設側の事情により希望するコースでの研修が出来ないこともあり得る。また、記載されている異動時期についても研修施設側の事情により変更となる可能性がある。

コース	研修1年目	研修2年目	研修3年目	研修4年目	研修5年目
a	基幹	基幹	連携	連携	基幹
b	基幹	基幹	連携	連携	連携
c	連携	連携	基幹	基幹	基幹
d	基幹	連携	基幹(大阪医療センター)	基幹(大阪医療センター)	基幹(大阪医療センター)
e	基幹	連携	連携	連携	基幹
f	基幹	連携	連携	大学院(研究)	大学院(臨床)
g	連携	大学院(研究)	大学院(研究)	大学院(臨床)	大学院(臨床)

a：研修基幹施設を中心に研修する基本的なコース。最終年次に大学で後輩の指導を行うことにより自らの不足している部分を発見し補う。連携施設は原則として1年ごとで異動するが、諸事情により2年間同一施設もあり得る。

b：ただちに皮膚科専門医として活躍できるように連携施設にて臨床医としての研修に重点をおいたコース。

c：研修連携施設から研修を開始するコース。

d：研修2年目に地域医療に従事し、3年目から大阪医療センターにて研修し、皮膚外科医を目指すコース。

e：研修2年目から4年目にかけて研修連携施設で研修し、地域医療の経験を積み、翌年大学にて研修するコース。

f：研修後半に、博士号取得のための研究を開始するプログラム。博士号取得の基本的コース。

g：専門医取得と博士号取得を同時に目指すハイパーコース。多大な努力を5年間持続する必要がある。特に4年目、5年目は濃密な臨床研修を行わないとカリキュラム修了は困難である。カリキュラムを修了できない場合は6年目も大学で研修することを前提とする。

2. 研修方法

1) 大阪大学医学部附属病院皮膚科

外来：診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。

病棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い、評価を受ける。

抄読会では1回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年

に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来 手術	外来	外来	外来		
午後	病棟	病棟 手術 病理 カンファレンス	病棟 回診 カンファレンス	病棟	病棟		

2) 連携施設

市立吹田市民病院：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 病棟回診 カンファレンス	病棟 外来 検査	病棟 検査 病理カンファレンス	病棟 手術	病棟 外来 臨床カンファレンス		

週1回カンファレンス

大阪けいさつ病院：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来		

週1回カンファレンス

公益財団法人日本生命済生会 日本生命病院：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の乾癬診療、救急医療、処置、手術法を習得する。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来 手術	外来	外来		
午後	病棟 検査 処置	病棟 外来	病棟 検査 処置	病棟 外来	病棟		

週1回カンファレンス

地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センター：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来		

週1回カンファレンス

地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪はびきの医療センター：

指導医の下、アレルギー基幹病院および地域医療の中核病院の勤務医として、アトピー性皮膚炎、薬疹、食物アレルギー、蕁麻疹などのアレルギー疾患を中心に、主として重症難治性の皮膚疾患の診療、救急医療、処置、手術法を習得する。ことにアトピー性皮膚炎については、乳児から成人まで全年齢の重症患者の長期コントロールの方法を習得する。その技能として外用療法、紫外線療法、全身療法、悪化因子の除去、心理社会的調整、患者指導等すべてを習得する。すべての症例において、皮疹、病理組織、血液検査所見等から病態を洞察、理解し、治療計画をたてることができるようになることを目標とする。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	初診予診	病棟 入院検査	病棟 入院計画	外来		
午後	病棟 他科対診 カンファレンス	病棟 皮膚検査	病棟 病理検討	病棟回診 カンファレンス	病棟 手術		

*初診予診：各症例について略診し、本診察終了後、指導医と討論する。 *皮膚検査：皮膚生検、光線テスト、パッチテスト、プリックテスト等 *入院検査：負荷試験等 *入院計画：新入院患者の把握と治療計画の立案 *カンファレンス：指導医と主に入院患者の治療計画の検討、再検討を行う

一般財団法人 住友病院：

指導医の下、地域医療の中核総合病院の勤務医として第一線の救急医療、各種検査、処置、基本的手術手技等を習得する。皮膚科特有の疾患以外に内科系、外科系疾患に関連する皮膚症状にも精通し、皮膚を通して患者を総合的に診察する能力を身につける。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	手術 外来	外来		
午後	病棟 処置 検査	外来 病棟 検査 病理カンファ レンス	病棟 処置 検査	カンファレンス 回診（含 褥瘡） 検査	病棟 処置 検査		

月1回下肢循環障害（PAD）合同カンファレンス

地方独立行政法人 市立東大阪医療センター：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週1回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 処置	外来 処置	外来 処置	外来 処置	外来 処置		
午後	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来 褥瘡回診		

週1回カンファレンス

堺市立総合医療センター：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週1回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来		

週1回カンファレンス

地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター：

指導医の下，特定機能病院かつ都道府県がん診療連携拠点病院での勤務医として，がん診療および皮膚外科に関する基本的な技術と知識を習得すると共に，わが国最先端のがん診療内容を体験する。時間が許す限り，大阪大学医学部皮膚科でのカンファレンス，抄読会に週1回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連及び悪性腫瘍関連の学会，学術講演会，セミナー，緩和医療講習会に積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会やがんサージカルボードに定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 処置	外来 処置	手術	外来 処置	手術		
午後	病棟	病棟 病理カンファ レンス	手術	病棟回診 臨床カンファ レンス	病棟		

週1回カンファレンス

独立行政法人 地域医療機能推進機構 大阪みなと中央病院：

地域医療の中核病院の皮膚科医として，救急医療，処置，手術法を習得するのは勿論，指導医の下，希少疾患や内臓疾患と関連した皮膚疾患を見逃さない幅広い知識を蓄積し，ダーモスコピーやエコーを含めた診断スキルを身につけることを目標とする。難治疾患や終末期皮膚癌に対しても積極的に治療や緩和の方法を工夫することにより国内外の学会発表，論文報告に繋げる。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス，抄読会に週1回参加，必須講習会を受講，年2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーや病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 手術	病棟 処置	病棟 処置	病棟 処置	病棟 処置病棟		

週1回カンファレンス

独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪病院：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。特にフットケア、皮膚潰瘍の症例を多く経験する。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	病棟	病棟	病棟	外来	病棟		
午後	外来 検査	手術 回診	外来 カンファレンス	外来 カンファレンス	外来 カンファレンス		

箕面市立病院：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 検査	病棟 検査	病棟 検査	病棟 検査	病棟 検査		

週1回カンファレンス

市立池田病院：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟	病棟 手術 検査	病棟 褥瘡回診	病棟	病棟 回診		

週1回カンファレンス

市立豊中病院：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法、特に悪性疾患の治療に対する知識、技術を習得する。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 検査	病棟 手術	病棟 手術	病棟 検査	病棟 検査		

週1回カンファレンス

独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター：

外来：診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。研修開始3ヶ月目以降は診察医として外来診察に当たる。病棟：専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週2回の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。病理カンファレンスで症例発表を行い、評価を受ける。抄読会では1回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	中央手術	外来	外来		
午後	病棟回診 入院患者 カンファレンス	各種検査 臨床・病理・手術 カンファレンス	中央手術	病棟回診	中央手術		

独立行政法人労働者健康安全機構関西労災病院：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 検査	病棟 生検	病棟 手術	病棟 手術	病棟 生検		

週1回カンファレンス

独立行政法人国立病院機構南和歌山医療センター：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。他科との連携が密な病院であり、皮膚症状を伴う他科疾患にも積極的にかかわる。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来		

週1回カンファレンス

医療法人医誠会 医誠会国際総合病院：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法、特に悪性疾患の治療に対する知識、技術を習得する。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟		
午後	処置外来		処置外来		処置外来		

週一度カンファレンス

3) 大学院(臨床)

基本的に日中は大学病院にて1)と同様にフルタイムで研修し、17時以降、大学院講義出席、臨床研究、論文作成等を行う。

4) 大学院(研究)

皮膚科以外の臨床教室、基礎教室にて皮膚科に関連する研究を行う。この期間、大学病院での研修および達成度評価・年次総合評価は不要とする。

5) 研修準連携施設

独立行政法人労働者健康安全機構 大阪労災病院

皮膚科部長及び非常勤指導医による指導の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。大阪大学医学部皮膚科とのリモートカンファレンスを行っている。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来	病棟 外来		

医療法人徳洲会 岸和田徳洲会病院

指導医の下、地域の24時間体制の救急病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。大阪大学医学部皮膚科とのカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習することが望ましい。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来	外来	外来
午後	外来	外来	外来	外来	外来	外来	外来

国家公務員共済組合連合会 大手前病院

皮膚科医長及び非常勤指導医による指導の下、地域医療の中核病院として、救急皮膚疾患の対応や、開業医院・クリニックからご紹介頂いた皮膚疾患の治療にあたる。当科にて病理・臨床カンファレンスを行い、近隣病院皮膚科との症例検討会を月2回している。年に2回以上の学会発表し、論文1本書くように指導している。大阪大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習することが望ましい。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 外来 手術	病棟 外来	病棟 外来 手術	病棟 外来 手術	病棟 手術		

研修の年間予定表

月	行事予定
4	1年目：研修開始。皮膚科領域専門医委員会に専攻医登録申請を行う。2年目以降：前年度の研修目標達成度評価報告を行う。
5	
6	日本皮膚科学会総会（開催時期は要確認）
7	皮膚科専門医受験申請受付
8	
9	
10	
11	
12	研修終了後：皮膚科専門医認定試験実施
1	試験合格後：皮膚科専門医認定
2	研修プログラム管理委員会を開催し、専攻医の研修状況の確認を行う（開催時期は年度によって異なる）
3	5年目：研修の記録の統括評価を行う。当該年度の研修終了し、年度評価を行う。皮膚科専門医受験申請受付

K. 各年度の目標：

1, 2年目：主に大阪大学医学部皮膚科において、カリキュラムに定められた一般目標、個別目標（1.基本的知識2.診療技術3.薬物療法・手術・処置技術・その他治療4.医療人として必要な医療倫理・医療安全・医事法制・医療経済などの基本的姿勢・態度・知識5.生涯教育）を学習し、経験目標（1.臨床症例経験2.手術症例経験3.検査経験）を中心に研修する。

3年目：経験目標を概ね修了し、皮膚科専門医に最低限必要な基本的知識・技術を習得し終えることを目標にする。

4, 5年目：経験目標疾患をすべて経験し、学習目標として定められている難治性疾患、稀な疾患など、より専門性の高い疾患の研修を行う。3年目までに習得した知識、技術をさらに深化・確実なものとし、生涯学習する方策、習慣を身につけ皮膚科専門医として独立して診療できるように研修する。専門性を持ち臨床に結びついた形での研究活動に携わり、その成果を国内外の学会で発表し、論文を作成する。さらに後輩の指導にもあたり、研究・教育が可能な総合力を持った人材を培う。

毎年度：日本皮膚科学会主催教育講習会を受講する。また、大阪地方会には可能な限り出席する。各疾患の診療ガイドラインを入手し、診療能力の向上に努める。

PubMedなどの検索や日本皮膚科学会が提供するE-ラーニングを受講し、自己学習に励む。

L. 研修実績の記録：

1. 「研修の記録」を、日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし、利用すること。

2. 「研修の記録」の評価票に以下の研修実績を記録する。

経験記録（皮膚科学各論、皮膚科的検査法、理学療法、手術療法）、講習会受講記録（医療安全、感染対策、医療倫理、専門医共通講習、日本皮膚科学会主催専攻医必須講習会、専攻医選択講習会）、学術業績記録（学会発表記録、論文発表記録）。

3. 専門医研修管理委員会はカンファレンスや抄読会の出席を記録する。

4. 専攻医、指導医、総括プログラム責任者は「研修の記録」の評価票を用いて下記（M）の評価後、評価票を毎年保存する。

5. 「皮膚科専門医研修マニュアル」を、日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし、確認すること。特にp.15～16では「皮膚科専攻医がすべきこと」が掲載されているので注意すること。

M. 研修の評価：

診療活動はもちろんのこと、知識の習熟度、技能の修得度、患者さんや同僚、他職種への態度、学術活動などの診療外活動、倫理社会的事項の理解度などにより、研修状況を総合的に評価され、「研修の記録」に記録される。

1. 専攻医は「研修の記録」のA.形成的評価票に自己評価を記入し、毎年3月末までに指導医の評価を受ける。また、経験記録は適時、指導医の確認を受け確認印をもらう。

2. 専攻医は年次総合評価票に自己の研修に対する評価、指導医に対する評価、研修施設に対する評価、研修プログラムに対する評価を記載し、指導医に提出する。指導医に提出しづらい内容を含む場合、研修プログラム責任者に直接口頭、あるいは文書で伝えることとする。

3. 指導医は専攻医の評価・フィードバックを行い年次総合評価票に記載する。また、看護師などに他職種評価を依頼する。以上を研修プログラム責任者に毎年提出する。

4. 研修プログラム責任者は、研修プログラム管理委員会を開催し、提出された評価票を元に次年度の研修内容、プログラム、研修環境の改善を検討する。

5. 専攻医は研修修了時までに全ての記載が終わった「研修の記録」、経験症例レポート15例、手術症例レポート10例以上をプログラム統括責任者に提出し、総括評価を受ける。

6. 研修プログラム責任者は、研修修了時に研修到達目標のすべてが達成されていることを確認し、総括評価を記載した研修修了証明書を発行し、皮膚科領域専門医委員会に提出する。

N. 研修の休止・中断、異動：

1. 研修期間中に休職等により研修を休止している期間は研修期間に含まれない。

2. 研修期間のうち、産休・育休に伴い研修を休止している期間は最大6ヶ月までは研修期間に認められる。なお、出産を証明するための添付資料が別に必要となる。

3. 諸事情により本プログラムの中断あるいは他の研修基幹施設のプログラムへ異動する必要がある場合、すみやかにプログラム統括責任者に連絡し、中断あるいは異動までの研修評価を受けること。

O. 労務条件、労働安全：

労務は勤務する施設の労務規則に従う必要がある。

給与、休暇といった労務条件は各施設の人事課に問い合わせると知ることができる。

なお、当院における当直はおおむね3~4回/月程度である。

2027年5月8日
大阪大学医学部附属病院皮膚科
専門研修プログラム統括責任者
藤本 学